

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 19 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	伝承館管理運営費				
担 当 課 係 名	伝承館 課		係	作成者	佐藤孝子
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち			総合計画の ページ
	基本計画	観光誘客体制の整備と観光資源の掘り起こし			
	主要施策	観光客受入体制の整備			29
予 算 費 目	一般 会計	7 款 商工費	1 項 商工費	5 目	伝承館費
事 業 期 間	平成 年度 ~ 平成 年度		新規 / 継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☐ 公共事業 ☒ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等	仙北市立角館樺細工伝承館並びにふるさとセンター条例				
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☒ 直 営 ☐ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 （誰のため・何を）	仙北市民、町内外の小、中、高校生、観覧者		
事業の目的・意図 （どういう状態にしたいのか）	仙北市民の歴史、文化、伝統工芸等への幅広い理解を得られるよう支援することを使命とする。		
事業の内容 （どのような業務、活動を行うのか）	年6回の特別展の実施 歴史資料等の収集保管	総合学習等を支援する教育普及活動 館内外の環境整備の充実	文化財の調査研究

【事務事業の推移】

（単位：千円）

	項 目		単位	18年度実績	19年度実績	年度実績	
効果	活動指標	開館総時間数	h	2,864	2,872		
	成果指標	来館者数	人	76,789	66,080		
投下コスト	項 目		総事業費	18年度決算額	19年度決算額	年度決算額	
	事業費（人件費を除く）(A)			19,077	20,143		
	財源内訳	国 庫 支 出 金					
		県 支 出 金					
		地 方 債					
		そ の 他					
		一 般 財 源		19,077	20,143		
		人 件 費 (B)		—	10,209	18,563	
		職 員 数	—	1.3	2.3		
		職 員 平 均 人 件 費	—	7,853	8,071		
	(A) + (B) 投下コスト		—	29,286	38,706		
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト (円)		—	10,226	13,477	
				—			
		市民1人当たりのコスト(円)		—	918	1,233	

【事務事業の今までの成果】

昭和53年9月開館以来、延入館者数389万人余り、延入館料9億4,700万円余りとなっている。また館蔵品は購入作品756点、寄贈品、1,417点で合計2,173点となっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	一部で指定管理者制度の導入もみられる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	郷土芸能、音楽活動等の発表の場としての利用などが寄せられている。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性		判 定 に 至 っ た 理 由
A	A	現状のまま継続（実施）	経済性には考慮の余地があるが、文化や歴史を後世に伝承するという意味合いからは、その必要性、有効性には揺るぎないものがあると判断した。
	B	見直しの上で継続（実施）	
	C	大幅な見直しの上で継続（実施）	
	D	休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	

一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	今後は更に利用者の利便性を考慮し、更に効率的な施設運営に努め事業を推進していただきたい。

一次評価診断図

